

## 第 541 回 統計審議会議事録

- 1 日 時 平成 9 年 10 月 17 日 (金) 14:00～15:10  
2 場 所 共用第 3 特別会議室 (中央合同庁舎第 4 号館 12 階)  
3 出席者 計 20 名

(委 員)

溝口会長、腰原委員、松田委員、井原委員、美添委員、廣松委員、昆委員、  
酒井委員、遠藤委員、灘本委員、筑波委員、五十畑委員、江川委員、福原委員  
袖井委員

(委員代理)

宇都宮 (松島委員代理)

(総務庁)

大戸統計基準部長、柚木統計企画課長、金子統計審査官、田所統計審査官

### 4 配布資料

#### (1) 庶務事項

- 統計審議会委員及び専門委員の発令について
- 部会に属すべき専門委員の指名について

#### (2) 部会の開催状況

- 部会の開催状況一覧

#### (3) 報告事項

- 平成 8 年社会生活基本調査 結果の概要 (要約)
- 平成 8 年社会生活基本調査 結果の概要

#### (4) その他

- 平成 9 年 8 月指定統計・承認統計・届出統計月報 (第 4 5 巻・第 8 号)
- 指定統計の公表実績及び予定
- 第 5 3 9 回統計審議会議事録

### 5 議題及び議事

#### (1) 小里長官就任あいさつ

小里長官から就任に伴うあいさつがあった。

#### (2) 庶務事項

##### ① 統計審議会委員及び専門委員の発令について

溝口会長から、統計審議会委員及び専門委員の発令について、別紙 1 のとおり発令がなされた旨報告があった。

##### ② 部会に属すべき専門委員の指名について

溝口会長が、別紙 2 のとおり、部会に属すべき専門委員の指名を行った。

#### (3) 部会の開催状況

- ① 平成 9 年 10 月 1 日に開催された第 47 回企業統計部会 (議題: 「平成 10 年に実施される通商産業省企業活動基本調査の計画について」及び「各省庁の企業等活動把握のための統計調査の整備状況について」) の開催結果について、松田企業統計部会長から報告が行われた。

- ② 平成9年10月3日に開催された第88回運輸・流通統計部会及び第59回鉱工業・建設統計部会の合同部会（議題：「平成10年に実施される商工業実態基本調査（仮称）の計画について」及び「各省庁におけるエネルギー統計の整備状況について」）並びに平成9年10月14日に開催された第48回企業統計部会、第89回運輸・流通統計部会及び第60回鉱工業・建設統計部会（議題：「平成10年に実施される商工業実態基本調査（仮称）及び通商産業省企業活動基本調査の計画について」）の開催結果について、井原運輸・流通統計部会長から報告が行われた。

〔質 疑〕

溝口会長）今回の部会で、企業活動把握のための統計調査の現状、あるいは各省庁のエネルギー統計調査の現状について報告を受けたということであるが、この結果について取りまとめる形でヒアリングを行っているのか。  
松田委員）現在、審議会に報告するような段階ではない。したがって、引き続き各省庁に報告を求め、調整を図りたいと思っている。

井原運輸・流通統計部会長）エネルギー統計についても同様である。

溝口会長）このような情報は非常に貴重である。公開可能な程度に整理された段階で、審議会だけでなく、広く公開されれば、いろいろな研究者等にも非常に便利だと思う。

松田委員）取りまとめについて、各省庁委員の方は是非協力いただきたい。

溝口会長）私の発言が役立てば幸いである。私の発言が過度な負担を掛けるように恐縮であるが、可能であるならば、非常に貴重な情報なので配慮していただければと思う。

#### (4) 報告事項

- ① 平成8年社会生活基本統計調査の速報結果について

総務庁統計局統計調査部労働力統計課横田調査官が、資料「平成8年社会生活基本調査結果の概要（要約）」に基づき、概略を報告

〔質 疑〕

袖井委員）今度の調査では10歳以上を対象にしているが、何か問題はなかったか。それから、同時並行的な行動の「ながら」を調査することになっているが、記入上で何か漏れがある等の問題はなかったか。

横田調査官）対象年齢を下げたことによって、特に、記入が悪かったというような結果は出ていない。それから、「ながら活動」については調査していない。誰と一緒にいたかについてしか調査していない。

松田委員）今度の社会生活基本調査は、確か世帯員の構成属性をかなり詳細に変えたと思う。一点目の質問であるが、単身赴任者送り出し世帯は、集計に耐え得るような数字になっているのか。また、その世帯累計の集計結果について現在分かっている範囲内で教えてほしい。それから二点目は、10歳以上を調査対象にしているが、小学生、中学生の年齢はうまく記入できるかどうか議論した記憶がある。小学生と中学生は問題なく分離できたのか。

横田調査官）まず、一点目の単身赴任者送り出し世帯は、集計に耐え得るような

数字かどうかはなかなか難しいところである。単身で出稼ぎのために送り出した世帯は、全体として32万程度ある。これは世帯主が女性で配偶者の男性を送りだした世帯である。まだ、詳細な分析はしていないが、その他に入院のためというのがある。入院のために世帯主の男性を送り出している女性の睡眠時間は特に変わらないが、家事の時間が少なくなり、その一方で介護・看護の時間が多くなっている。それから、二点目の質問の小学生、中学生の年齢がうまく区切れるかどうかについてであるが、生まれた年月を調査しているので、それによって区切っている。もちろん、高校生になった場合に1年留年しているかどうかまでは分からない。しかし、学齢年齢である生年月の4月現在で分けている。

廣松委員) 学校の種類別生活時間(在学者)において、学業という区分の中に塾は含まれているのか。

横田調査官) 学校の勉強に関連したものであれば、塾も入っている。

廣松委員) すると、それは積極的余暇活動の中の学習研究とは別の区別になっているのか。

横田調査官) 例えば、高校生が大学に入学するために予備校に行っているという場合も学業の中に入っている。

廣松委員) 地域別就寝率・睡眠時間が集計されており、ブロック単位になっているが、県単位まで細かくすることは可能か。

横田調査官) 県単位でも集計している。

廣松委員) これは直接、社会生活基本調査とは関係ないが、平成8年の2月ころに統一時間調査の試験調査が行われたと記憶しているが、その集計はどのようなになっているのか。

横田調査官) 現在、集計と分析を進めているところであるが、本調査の方を優先して行っている状況である。

昆 委員) 簡潔に言うと、国勢調査と社会生活基本調査を急ぎ集計し、この集計が後回しになっていた。現在、分類に手間が掛かり、手作業で集計を行っている。

美添委員) 年齢階級別「趣味・娯楽」の行動者率を見ると、10～14歳の年齢層が主体的に行動したのか理解に苦しむところがある。例えば、ドライブは10～14歳の年齢層で結構高いが、これは家族と一緒にいると考えることができる。また、「観光旅行」についても、10～14歳の年齢層であれば、主体的に行っているというよりも、家族と一緒にいるものを「趣味」と答えている気がする。

横田調査官) これまでの定義で言うと、ドライブや観光旅行について、親と一緒にいったものも「趣味・娯楽」に含まれている。したがって、10～14歳の年齢層は当然免許を持っていないため、親と一緒にドライブをしたことが「趣味・娯楽」に計上されていると理解していただきたい。

松田委員) 平均行動日数は、仮定の置き方でかなり計算方式が変わってくると思うので、これは少し集計方法を検討していただきたいと思う。

溝口会長) この調査は、最近マスコミ等でも非常に関心を持たれてきて、一般社会でも定着してきたような感想を抱いている。

別紙1

統計審議会委員及び専門委員の発令について

( 再 任 )

平成9年10月13日付

委 員 溝 口 敏 行 (広島経済大学経済学部教授)

( 任 命 )

平成9年10月17日付

専 門 委 員 長 内 敬 (大蔵省関税局調査保税課長)  
=江川明夫前専門委員の後任

以 上

別紙2

部会に属すべき専門委員の指名について

統計審議会令第6条第3項の規定に基づき、部会に属すべき委員として下記の者を指名する。

平成9年10月17日

統計審議会会長  
溝口敏行

記

経済指標部会

専門委員 長内 敬 (大蔵省関税局調査保税課長)

以 上